

令和2年度  
事業報告書



# 目 次

重点事業報告について	1
<b>I 法人運営部門</b>	
1.法人運営事業	2
<b>II 事業部門</b>	
1. 在宅福祉・地域福祉事業	3
2. 地域ボランティア活動の充実・福祉教育の推進	10
3. 生活支援体制整備事業	12
4. 福祉活動を支えるための取り組み	14
5. 社会福祉協議会活動普及の取り組み	17
6. 職員体制及び職員研修	18
<b>III 経営部門</b>	
1. 介護サービス事業(介護保険法)	21
2. 障がい福祉サービス事業(障害者総合支援法)	29
3. その他の特記事項	31

# 令和2年度 社会福祉法人埴町社会福祉協議会 事業報告書

## 重点事業報告について

新型コロナウイルス感染症の発生により、社会や経済に大きな影響を及ぼし、現在も感染拡大をしております。

そのような中、「住民が地域で暮らすことの実現」に向け、「住民とともに進める福祉」を目指して、コロナ対策を取りながらの活動に取り組んでまいりました。

人と人が支え合うことができる「地域づくり」を目指すため、地域福祉活動計画を作成いたしました。地域福祉活動計画は、住民の方々と一緒に福祉課題の解決に向け取り組んでいくための行動計画であり、町民の皆さんや子育て世代の皆さんに福祉に関するアンケートを実施したり、民生児童委員の方々と意見交換を行ったり、サロン参加者の意見を聞いたり等、多くの方々に関わっていただき作成に至ることができました。

住民の方々との災害対策のための研修会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、災害ボランティアセンター運営マニュアルを作成いたしました。

生活支援体制整備事業で委託された生活支援コーディネーターの配置では、手助けが必要な人と手助けができる人をつなぐことで、地域での助け合いのしくみづくりの一つとして「エールはなわ」事業を立ち上げました。

また財政基盤安定に向けた社協会費等自主財源の確保については、賛助会員の規定を新たに設け、賛助会員加入と会費募集を行い、9つの企業が加入されました。

業務支援コンサルティングの導入では、経営基盤の強化と安定化を図るため、就業規則や給与規則の全面改正を行い、昨今の法改正に対応した規則整備と本会の経営規模に見合った労働条件の見直しを行ってまいりました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、貸付事業においては深刻な生活課題を抱える人たちの相談が増大しました。また、コロナ対策で事業が中止になったものもあり、社協ができることとして、ひとり暮らし高齢者の方へ広報誌「つながろう広報」を配布し様々な情報の提供を行いました。

経営活動は、介護保険制度による5つの事業所と障害者総合支援法による1事業所の、合わせて6事業所を運営し、コロナ対策を徹底的に行いながら、最適なサービスを利用者に提供すべく、利用者とその家族の意向に添ったより良いサービスの提供に努めてまいりました。

# I 法人運営部門

## 1. 法人運営事業

社会福祉協議会は、民間での社会福祉活動の推進を目的として、社会福祉法に基づいて設置される非営利の民間組織です。

皆様からの社会福祉協議会会費や町からの補助金及び募金配分金等が財源となり、様々な場面で地域福祉の増進に取り組んでいます。

埴町社会福祉協議会では、この福祉活動を法人運営事業と位置づけ、経営活動と区分しています。

地域福祉の担い手としてふさわしい事業を地域住民とともに推進するため、理事会を中心として事業の健全経営や透明性の確保を図りました。

- 理事会 年4回開催
- 評議員会 年2回開催
- 監査 年2回
- 職員会議 年12回開催

令和2年度は業務支援コンサルティングを導入し、就業規則や給与規則の改正を行ってまいりました。職員の福祉にも配慮しつつ、本会の規模に見合った内容に改正し、経営を圧迫しない規則に改正しました。

- 委託先 あおば社会保険労務士法人
- 就業規則、給与規則の改正 社会保険労務士と契約し、昨今の法改正に対応した規則とし、本会の規模に見合った内容に改正
- 規則改正に伴う職員説明会 令和3年3月26日(金)実施 職員26名出席

埴町議会総務常任委員会の所管事務調査があり、埴町社会福祉協議会の令和2年度運営状況について報告しました。また、社会福祉協議会の現場視察も行われました。

委員から町内に介護事業所が増える中、「社協の強みは何か」といった質問もありました。社会福祉協議会は「埴町」という町の名称がついている安心感と、大きな事故等がなく、家族の方にも安心して利用者を預けていただける事業所を目指して日々技術や知識の習得に励んでいます。

- 所管事務調査 日時 令和3年2月19日(金) 午後1時30分～
- 所管事務調査 場所 埴町委員会室及び埴町社会福祉協議会
- 出席職員 事務局長 木田恵子  
係長 穂積裕子

## Ⅱ 事業部門

### 1. 在宅福祉・地域福祉事業

【1】地域福祉活動推進事業（町受託事業）	今年度経費	905,463 円
	前年度経費	733,626 円

住民により近い視点から、民間としての特性を生かしつつ、きめ細かな地域福祉活動の推進を目指しました。

#### ■福祉バス維持管理

各種福祉事業及び福祉団体に対する活動を支援

運行回数	2回	(前年度 26回)
延乗車人員	23人	(前年度 409人)

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策により、運行回数、延乗車人員は減少

#### ■百歳賀寿事業

百歳の高齢者に対し記念品を贈呈し、その長寿を祝い、高齢者の健康増進に努める意欲を高める

贈呈者	4名	(前年度 3名)
-----	----	----------

## ★第1次埴町地域福祉活動計画策定(計画期間:令和3年度～令和7年度)

地域住民や関係機関・団体等と協力して地域福祉の福祉課題を解決するための目標と地域福祉の活動を示した地域福祉活動計画を策定しました。令和元年度から組織づくりや調査を行い、令和2年度は以下のような策定過程を経て策定に至りました。計画は令和3年度から令和7年度の5か年計画です。

策定委員会開催回数	5回開催
作業部会開催回数	18回開催
アンケート等調査	①子育て世代へのアンケート 保護者 605 名回答 ・子育て支援に関するニーズ調査及びボランティアに関する意識調査の実施 ②民生児童委員協議会 方部委員会開催 令和2年8月19日開催 ・民生委員活動を通じて感じる地域の課題について ③サロン参加者への聞き取り調査 9 地区 79 名回答 ・高齢者の移動の問題について ・高齢者の居場所について
アドバイザー支援	※東北福祉大学 森明人准教授とのリモート会議実施 ①令和2年6月22日開催 ・町民アンケート結果から見える地域の課題について ②令和2年10月19日開催 ・計画の体系図について ・課題と実施事業の整合性について
地域福祉活動計画書の作成	3月 製本・印刷 概要版 2,840 世帯(全世帯)配布 計画書 関係機関や関係団体に送付(55 部送付)

### ■移動・外出支援の検討事業

高齢化が進む中、高齢者の“生活の足”の確保が課題となり、住民主体による福祉課題の解決に向けた公益的な取り組みとして検討

先進地視察	新型コロナウイルス感染症対策のため中止
-------	---------------------

## ■法外扶助費支給事業

移動費を持たない行旅人等に対し、次の市町村までの運賃相当額となる 500 円を支給

利用人数	1人	(前年度 2人)
------	----	----------

## ■福祉用具等貸出事業

車椅子やテント、ニュースポーツセットを無料で貸し出すことで地域福祉の推進に貢献

(備品)

貸出品目	回数
車椅子	4回
テント	1回
テントおもり	1回

(ニュースポーツセット)

貸出品目	回数
カーリンコン	2回
公式輪投げ	1回
スカットボール	9回
トリコロキューブ	1回
ストライクナイン	1回

## 【2】一般募金配分金事業

今年度経費 1,306,255 円  
前年度経費 1,229,671 円

埴町社会福祉協議会で取り扱った赤い羽根共同募金の一部が翌年福島県共同募金会より配分され、その配分金が財源となる事業

### ■ひとり暮らし高齢者交流会

交流が偏りがちなひとり暮らし高齢者の方に、様々な方との交流を促すと共に、温泉入浴やカラオケ、会食等楽しんでいただくことを目的に毎年開催していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため令和2年度は中止となりました。

### ■寝たきり高齢者介護世帯慰問事業

寝たきり高齢者等の激励と、日常的に介護を行っている家族介護者のご労苦を慰労し応援の気持ちを込めて、そのご家庭を訪問して慰問品を贈呈しました。

対象	11 世帯	(前年度 15 世帯)
内容	現金 5,000 円	(前年度 現金 5,000 円)
実施日	令和2年 11 月	

### ■ひとり親世帯入進学祝品贈呈事業

ひとり親世帯の小・中学生及び高校生の入進学に際し、祝金を贈呈しました。

対象	85 世帯 (129 人)	(前年度 78 世帯 (121 人))
内容	現金 5,000 円	(前年度 現金 5,000 円)

### ■福祉団体助成事業

町内の福祉団体や福祉事業所の活動を助成しました。

団体名	助成額
埴町老人クラブ連合会	90,000 円
埴町心身障がい児者親の会	50,000 円
埴町身体障がい者福祉会	40,000 円
埴町赤十字奉仕団	40,000 円
ウッドピアはなわ	20,000 円
ダリア工房	40,000 円
計	280,000 円



---

**【3】 歳末たすけあい配分金事業**今年度経費 739,618 円  
前年度経費 647,850 円

福島県共同募金会から配分される歳末たすけあい配分金による事業

**■歳末たすけあい慰問事業**

新たな年を迎える時期に、ひとり暮らし・寝たきり高齢者、高齢者世帯、ひとり親世帯、障がい者及び生活困窮者等の支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるよう、少しでも豊かな心持ちで新年を迎えることができることを祈念して慰問品を贈りました。

令和2年度は埴町共同募金委員会運営委員会を開催し、配分方法について協議を行いました。また事業の実施については、民生児童委員にたくさんの協力をいただきました。

対 象	118 世帯	(前年度 93 世帯)
内 容	現金 6,200 円	(前年度 現金 7,000 円)

【4】心配ごと相談事業（町受託事業）

今年度経費 863,637 円  
前年度経費 891,028 円

相談所を定期に開催し、日常生活上の様々な悩み事や困り事の相談に応じる事業  
月1回、弁護士相談日を設け、法律の専門家による対応を行いました。

	一般相談	弁護士相談
開設日時	月曜日[休日を除く] 10時～15時	第2月曜日[休日の際は翌週] 13時～15時
相談体制	相談員 2名	弁護士 1名
開設場所	埴農村勤労福祉会館小会議室 ※変更の場合はあらかじめ周知	
その他	相談料無料、秘密厳守、相談員 6名 各回 男性1名、女性1名	
開設回数	43回 (前年度40回)	12回 (前年度12回)
相談件数	18件 (前年度17件)	51件 (前年度37件)
主な内容	借金問題 10件 家族関係 9件 土地住宅関係 8件 財産関係 6件 相続関係 5件	

【5】権利擁護事業（県社協受託事業）

今年度経費 558,775 円  
前年度経費 362,233 円

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者のうち判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用や生活に必要なお金の出し入れ等公的な制度で支援する。

■あんしんサポート事業(日常生活自立支援事業)

判断能力が低下した利用者へのニーズに応え、福祉サービス利用手続きと日常の金銭取扱に関する支援(令和3年3月31日現在)

利用者	11人	(前年度8人)
利用回数	160回	(前年度100回)

**【 6 】 生活援護事業**今年度経費 390,768 円  
前年度経費 281,747 円**■生活福祉資金貸付事業（県社協委託事業）**

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯等の世帯を単位に、それぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金（総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金）の貸付けを行う事業

福島県社会福祉協議会が実施主体で、塙町社会福祉協議会が窓口を担当

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のための特例貸付である、緊急小口資金貸付の相談が増大しました。

新規利用	31 件	(前年度 0 件)
継続利用	2 件	(前年度 2 件)
利用相談	68 件	(前年度 8 件)

**■生活援護資金貸付事業**

一時的に生活資金などでお困りの方を対象に、その世帯の生活の安定と助長促進を図ることを目的に資金の貸付けを行う事業

貸付限度額は 50,000 円で無利子ですが、連帯保証人が必要となり、償還は2年以内が条件

新規利用	18 件	(前年度 3 件)
継続利用	5 件	(前年度 5 件)
利用相談	21 件	(前年度 8 件)

## 2. 地域ボランティア活動の充実・福祉教育の推進

### 【1】ボランティアセンター事業（町受託事業）

今年度経費 325,700 円  
前年度経費 321,649 円

住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるために、支え合い活動をベースにしたボランティア活動を行いました。

また、ボランティアの育成や活動の相談、登録受付、活動支援、連絡調整、情報発信及び啓発活動等様々な取り組みを行いました。

#### ■ボランティア登録

個人	19人	(前年度 19人)
団体	6団体	(前年度 6団体)

#### ■傾聴ボランティア（みみネットはなわ）

傾聴ボランティアとは、人とお話をする機会が少なかったり、話し相手が限定されがちな高齢者の話し相手となり、嘆きや悩みを「きちんと聴く」ことによって相手の心の不安を軽減し、その人なりの判断や納得を促すというものです。

「みみネットはなわ」を組織し、月に1回1時間程度の訪問活動を2人1組で行いました。また、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、IP電話による電話傾聴も行いました。

##### 訪問傾聴

利用者	14人	(前年度 15人)
利用回数	97回	(前年度141回)

##### 電話傾聴

利用者	6人
利用回数	36回

##### ～みみネットはなわ活動状況～

活動登録者	18人
定例会	6回(隔月開催)

##### 傾聴ボランティア研修

実施日	令和3年3月19日(金)	場所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
参加者	10名		
内容	心も身体もスッキリ「ストレス解消」 ～簡単にできるストレス解消法をお伝えします～ 講師:快フィットネス研究所 所長 吉井雅彦氏		

#### ■ボランティアステップアップ研修(郡内4町村社協合同事業)

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

#### ■サマーショートボランティアスクール(郡内4町村社協合同事業)

新型コロナウイルス感染症対策のため中止

## ■福祉教育(埜町出前講座)

福祉教育に関する町内学校からの講師派遣要請が埜町出前講座に届き、同講座からの講師派遣要請により社協職員が学校に出向き、講師を担いました。

### 【第1回】

対 象	笹原小学校4年生	参加者	14名
実施日	令和2年7月1日(水)	場 所	笹原小学校
内 容	高齢者疑似体験		

### 【第2回】

対 象	笹原小学校4年生	参加者	14名
実施日	令和2年12月2日(水)	場 所	笹原小学校
内 容	「ふくし」ってな～に？(ふくし、しょうがい、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて)		

## ■シニア男性講座(埜の“おやじ塾”)

男性ボランティア増加、ネットワーク作りのため50歳以上の男性を対象に講座を開催、今後につながる効果がありました。

### 【第1回】

実施日	令和2年9月2日(水)	場 所	埜町公民館
参加者	13名	内 容	マジックを学ぼう 講師:社協職員

### 【第2回】

実施日	令和2年11月4日(水)	場 所	埜農村勤労福祉会館
参加者	9名	内 容	わら工芸体験(わら草履作り) 講師:藤田洪氏

### 【第3回】

実施日	令和3年1月13日(水)	場 所	埜農村勤労福祉会館
参加者	10名	内 容	そば打ち体験 講師:生方光明氏

### 【第4回】

実施日	令和3年3月3日(水)	場 所	埜町公民館
参加者	7名	内 容	令和2年度の振り返り・今後の活動について

## ■ボランティアの活動環境整備

地域住民にとって身近な存在として機能し、ボランティアが活動しやすい環境を整え、あらゆる住民が参画できるプラットフォームの提供を行いました。

### 【サロンへの協力】

件 数	9地区(令和元年度7地区) 各サロン支援 友遊サロン(木野反)、すまいるサロン(板庭)、げんきサロン(水元)、なかよしサロン(東河内)、若草サロン(大蔵・大畑)、植田フラワーサロン、埜5・6区サロン、川上1・2区サロン、常豊いきいきサロン
-----	--

## ■おてつだいボランティアの実施 新型コロナウイルス感染症対策のため中止

## ★災害ボランティア

災害ボランティアに関する環境整備や、町民の方に災害に対して意識を高めてもらう目的で行う研修会の開催などを行っていく事業です。

令和2年度は災害ボランティア研修会を開催し「災害時に求められる地域の力」について理解を深め、地域の方と一緒に考えていく時間を設ける予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため直前で中止を決定しました。

【災害ボランティア研修会の内容】（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

実施日	令和3年1月23日(土)、24日(日) の2日間で予定	場 所	埴農村勤労福祉会館 大研修室
参加者	参加予定者 50名程度の申込がありました。		
内 容	<p>【講義①】 「いざ災害、その時わたしたちは」～地域が支える・地域を支える～ ・私たちが災害時に備えて普段の暮らしの中でもできることを、一緒に考える。</p> <p>【講義②・ワークショップ】 「災害への様々な備え」～福祉防災マップ作りを通じた、地域の再発見～ ・防災マップの活用法を学び、地域の助け合い活動について一緒に考える。</p>		

## 3. 生活支援体制整備事業（町受託事業）

今年度経費 2,000,000円  
前年度経費 2,518,282円

日常生活において支援が必要な高齢者等の方々が、住み慣れた地域で生きがいをもって在宅生活が継続できるように、「介護予防」「社会参加」を重視しながら、住民の方が主体となって取り組む助け合い・支えあい活動を推進していく事業

地域の中で多様なサービスが提供できるよう、住民と一緒に考えながら、ボランティア等の担い手や地域資源の発掘、関係機関のネットワーク作りを行っていく事業

### 【1】生活支援コーディネーターの配置

町からの委託により、高齢者等の生活支援サービスの体制整備を推進するため資源開発やネットワーク構築の機能を果たすことを目的に配置しています。

#### ■生活支援コーディネーター情報交換会・研修会

開催日	令和2年8月11日(火)	場 所	動画研修
	令和2年11月24日(火)		動画研修
	令和2年12月8日(火)		集合研修:ライブ配信
	令和3年1月8日(金)		動画研修

## ■事例発表

開催日	令和2年9月1日(火)	場所	県中保健福祉事務所
内容	埴町の取り組みについて		

## ■地域保健福祉活動推進研修（事例発表）

開催日	令和2年10月19日(月)	場所	南会津町御蔵入交流館
内容	介護予防と地域づくりセミナー、埴町の取り組みについて		

## ■普及啓発活動

開催日	令和2年12月7日(月)	場所	埴農村勤労福祉会館
内容	98名参加 支え合いを広げる地域づくりフォーラム(埴町生活支援体制整備事業研修会)		

## ■協議体「笑顔つなげる会」会議

会議開催数	7回
-------	----

## ■助け合い活動の創出(エールはなわの立ち上げ)

### 1)先進地視察

開催日	令和2年9月11日(火)	場所	郡山市社会福祉協議会
内容	社協職員2名による、生活支援コーディネーター現地視察		

### 2)エールはなわ協力会員養成講座

開催日	令和3年3月2日(火)、3月9日(火)	場所	埴町公民館
内容	両日とも54名の参加 3月2日 ①町の高齢化の現状 ②エールはなわの概要 ③高齢者への接し方 3月9日 ①在宅支援のポイント ②寸劇「エールはなわ」 ③エールはなわの留意事項		

### 3)エールはなわ協力会員説明会

開催日	令和3年3月23日(火)	場所	埴農村勤労福祉会館
内容	32名参加 今後の活動の注意事項等		

## 4. 福祉活動を支えるための取り組み

### 【1】社会福祉協議会の会員及び会費の募集

全戸加入を目標として行政区長の協力をいただきながら会費の納入とりまとめを行うなど会員の確保に努めました。

また、令和2年度は新たに賛助会員の規程も設け、賛助会員加入及び会費募集の活動も行いました。

一般会員会費納入額	1,024,000 円 (2,052 世帯)	(前年度 1,033,000 円(2,066 世帯))
特別会員会費納入額	30,000 円 (14 名)	(前年度 0 円)
★ 賛助会員会費	45,000 円 (9社)	(前年度 0 円)

★…新規

### 【2】日本赤十字社社員及び社費の募集

国内の大規模災害や世界各地の自然災害での被災者および難民を支援するため、日赤事業の推進のため社費募集チラシ配布、奉仕団員の地域訪問により社費募集を実施いたしました。

社費収納額	1,516,340 円	(前年度 1,608,280 円)
-------	-------------	-------------------

※ 令和2年度収納額の内 195,720 円が埴町分区へ配分されました。



### 【3】共同募金運動

「じぶんの町を良くするしくみ」である赤い羽根共同募金運動への一層の理解と参加を促進するために、町民や企業に効果的な広報活動を促進し、地域福祉の促進に努めました。

#### ■赤い羽根共同募金運動（運動期間：令和2年10月～令和3年3月）

		(前年度)
★	戸別募金	970,140 円 (1,176,480 円)
	街頭募金	53,746 円 (0 円)
	法人募金	582,300 円 (552,490 円)
	学校募金	47,888 円 (17,732 円)
	職域募金	298,251 円 (104,249 円)
	個人募金	9,796 円 (0 円)
	イベント募金	0 円 (18,355 円)
	その他の募金	39,759 円 (67,399 円)
	計	2,001,880 円 (1,936,705 円)

★…新規

※ この内 1,276,880 円が令和3年度、一般募金配分金事業として使われます。

**★街頭募金活動** 実施日時：令和2年10月31日(土)  
午前10時30分～12時30分  
実施場所：道の駅はなわ「天領の郷」

200円以上の募金をしてくださった方に、大ヒット映画「鬼滅の刃」と赤い羽根共同募金がコラボしたクリアファイルを進呈しました。映画の人気で募金開始前から多くの方に並んでいただきました。

街頭募金は初の試みでしたが、新型コロナウイルス感染症対策を徹底させるため、普段の募金活動よりも準備に時間はかかりましたが、多くの方に募金にご協力いただき、無事に実施することができました。

#### ■歳末たすけあい募金運動（運動期間：令和2年10月～令和2年12月）

		(前年度)
	戸別募金	716,800 円 (742,400 円)
	個人募金	2,118 円 (0 円)
	その他の募金	20,700 円 (0 円)
	計	739,618 円 (742,400 円)

※ 全額、令和2年度歳末たすけあい配分事業として使われました。

---

## 【 4 】 関係福祉団体業務及び福祉団体事務局

### ■事務を担当する業務

社会福祉法により市町村ごとに分会がおかれている団体の業務を行いました。

福島県共同募金会 塙町共同募金委員会
日本赤十字社福島県支部 塙町分区

### ■事務局を担当する福祉団体

それぞれの使命を有して活動する福祉団体の事務局機能を担いながらその活動を通して地域福祉に関する課題を相互に共有し事業推進が図られるよう支援を行いました。

塙町民生児童委員協議会
塙町老人クラブ連合会
塙町赤十字奉仕団
塙町身体障がい者福祉会
塙町心身障がい児(者)親の会
塙町遺族会

## 5. 社会福祉協議会活動普及の取り組み

### 【1】広報活動

今年度経費 686,400 円

前年度経費 453,798 円

ホームページにより町内外の方に常に最新の情報が届くよう努めました。また、インスタグラムやツイッター、SNS 上でも事業を実施した様子などを掲載することで、インターネットを活用する若年層に向けても情報を発信することができました。

町内マスコミにも広告を掲載し、介護、福祉の相談の窓口として社協の存在をPRしました。

広報誌の発行	①はなわ社協だより「こころ」 全戸配布2回（4月、3月） ②「つながろう広報」ひとり暮らし高齢者へ配布 1回(5月) ③「エール体操」全戸配布1回(10月)
広告掲載	町内マスコミ2社

### 【2】地域福祉充実のためのネットワークの構築

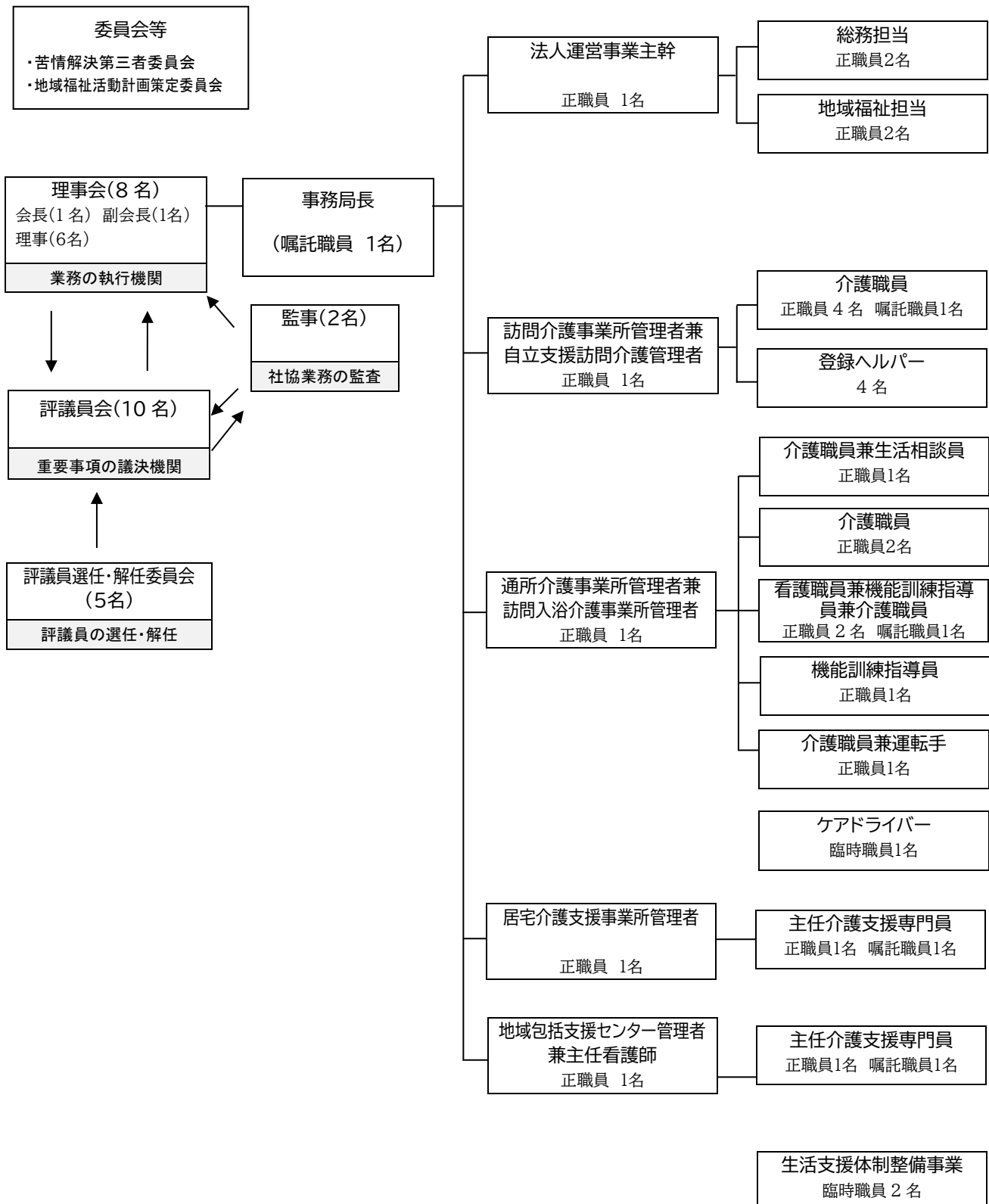
行政機関関連部署及び福祉関係機関・団体との密なる連携を図り、福祉ネットワークの整備に努めました。

## 6. 職員体制及び職員研修

### 【1】職員体制

#### 組織図

社会福祉法人埜町社会福祉協議会組織図（令和3年3月31日現在）



## 【2】職場内職員研修

事務事業の実践能力の向上、専門性の向上、組織人としての成長のため職場内研修を実施し職員の資質向上に努めました。

### ■新型コロナウイルス感染症に関する研修

日時	令和2年10月27日(火) 午後4時30分～午後6時00分		
場所	埴町デイサービスセンター	参加者	職員27名
内容	新型コロナウイルス感染症について (講師:東白川郡医師会 会長 星竹敏 氏)		

### ■ハラスメント防止研修(リモート研修)

日時	令和2年11月11日(水) 午後1時30分～午後3時00分		
場所	埴町デイサービスセンター相談室	参加者	管理者4名・係長1名
内容	パワーハラスメントについて(講師:あおば社会保険労務士法人 新井淳子氏)		

### ■職員就業規則改正についての研修(リモート研修)

日時	令和3年3月26日(金) 午後4時30分～午後6時00分		
場所	埴町デイサービスセンター	参加者	職員26名
内容	職員就業規則の改正について (講師:あおば社会保険労務士法人 代表 藤原英理氏)		

## 【3】役職員研修・専門研修

今年度経費 112,400円  
前年度経費 366,651円

福島県社会福祉協議会、さまざまな団体等が実施する研修会や講習会等へ役員、職員を積極的に派遣し、他団体からの参加者との交流や情報交換等を通じて、地域福祉活動の推進に努めました。

令和2年度は、集合型ではなくリモートによる研修会が多数行われ、移動することなく画面を通しての研修受講も多くありました。

- ① 福島県社会福祉大会 令和2年10月29日(木) 会場 喜多方プラザ文化センター  
職員3名出席  
・大会会長表彰 職員1名  
・団体表彰 埴町共同募金委員会  
・記念講演「新型コロナウイルス流行時の支援者のこころのケア」  
講師:公立大学法人 福島県立医科大学  
医学部 主任教授 前田正治氏

② その他の研修会

内 容	出席者	日 時・場 所
災害ボランティアセンター運営研修「基礎編・実践編」	職員1名	令和2年7月16日・17日 福島県社会福祉協議会
認知症対応力向上研修	職員1名	令和2年8月5日 サンフレッシュ白河
共感力を高める「伝え方(広報力)を学ぶ～団体や活動のファンを増やそう～」	職員1名	令和2年10月9日 福島県社会福祉協議会
令和2年度あんしんサポート担当職員研修会	職員1名	令和2年11月10日 福島県社会福祉協議会
福島県障害支援区分認定調査員研修会	職員3名	令和2年11月24日 リモート研修
市民公開講座 「人生100年時代 安心して生きるコツ」受講	職員5名	令和2年11月30日 白河市 コミネス
社会福祉協議会における福祉・介護サービス事業経営 ～通所介護事業の経営を通して考える～	職員1名	令和2年12月2日 リモート研修
「Withコロナ」のボランティア活動を支援するために	職員1名	令和2年12月8日 リモート研修
福島県若年性認知症自立支援ネットワーク研修	職員2名	令和2年12月9日 郡山市 星総合病院
「社会福祉法人の経営力強化」	職員1名	令和3年1月27日 リモート研修
介護経営セミナー「介護報酬改定の解説と事前対策」	職員5名	令和3年2月17日 リモート研修
介護経営セミナー「業務継続計画(BCP)の作り方」	職員5名	令和3年2月24日 リモート研修
全社協主催 令和2年度 経営基盤強化セミナー	職員5名	令和3年2月25日 リモート研修
社会福祉協議会における通所介護事業の経営に関する情報交換会	職員1名	令和3年3月2日 リモート研修

### Ⅲ 経営部門

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に関する研修会を行い、感染防止のための対策を十分に行いながら介護事業の運営に努めてまいりました。

また、引続き社会保険労務士に経営改善に関する支援をいただきながら、よりよい介護サービスに努めてまいりました。

#### 1. 介護サービス事業（介護保険法）

介護を必要とする状態になっても安心して生活が送れるよう、介護を社会全体で支えることを目的として平成12年4月からスタートした介護保険制度、その要介護者と家族の安定した生活を支えるための介護サービスを提供する事業所の運営を行いました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に取りながらの運営となりました。国からのコロナ対策支援金を活用し、対策に必要なマスク、消毒液、飛沫防止パーテーションなど購入しました。また町民の方から手作りマスクの寄付があり、利用者へ配布をしました。

また、町のエール商品券を利用料の支払いに使用できるようにし、利用しやすい介護事業所に努めました。

#### 【1】訪問介護事業所（ホームヘルプサービス）

	資金収支差額	経費
今年度	13,792 円	29,383,214 円
前年度	△6,965,313 円	35,151,178 円

前年度と比べ、介護保険収入はわずかに増加しました。また今年度は人件費の支出について見直し、収支のバランスを調えることで赤字を減らすことに努めました。

#### ■訪問介護事業(ホームヘルプサービス)

訪問介護員(ホームヘルパー)が利用者(要介護者)宅を訪問し、オムツ交換、入浴介助、清拭等の身体介護や調理、清掃等の家事の援助を行います。

#### 【利用者】

(実人数)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護		44	42	47	45	44	45	48	48	50	44	45	44	
総合※		16	13	13	14	13	15	16	15	14	16	17	16	
計		60	55	60	59	57	60	64	63	64	60	62	60	
合計	介護	546 (前年度 439)						一カ月平均	介護	45.5 (前年度 36.5)				
	総合	178 (前年度 222)							総合	14.8 (前年度 18.5)				
	計	724 (前年度 661)							計	60.3 (前年度 55.0)				

## 【訪問回数】

(回)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護	548	520	560	561	504	529	548	531	516	483	464	503	
総合※	90	75	83	82	71	82	85	74	79	79	81	84	
計	638	595	643	643	575	611	633	605	595	562	545	587	
合計	介護		5,799 (前年度 6,068)					一カ月平均		介護		483.2 (前年度 505.6)	
	総合		965 (前年度 1,277)							総合		80.4 (前年度 106.4)	
	計		6,764 (前年度 7,345)							計		563.6 (前年度 612.0)	

※総合とは、市町村が中心となって要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援を行う「総合事業」のことです。

## ■福祉有償運送事業

介護保険、自立支援の認定を受けていて、交通手段に困る高齢者の病院等への車両による送迎を行っています。

## 【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	15	18	12	13	11	17	12	17	16	13	16
合計			176 (前年度 143)			1カ月平均			14.6 (前年度 11.9)		

## 【運行回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
89	100	94	73	86	92	102	94	101	90	92	85
合計			1,098 (前年度 776)			1カ月平均			91.5 (前年度 64.6)		

## ■軽度生活援助事業(受託事業:埴町軽度生活援助事業実施要綱)

在宅で生活する高齢者を対象に、軽易な日常生活上の援助を実施します。具体的には、調理、掃除、買物及び相談・助言等が主な内容となります。

## 【利用者】

0 (前年度 0)
--------------

## ○人材確保

ホームヘルパー人材の増加に努めるべく、登録ヘルパー募集を継続して行いました。



## 【2】通所介護事業所（デイサービス）

	資金収支差額	経費
今年度	△16,427円	66,987,520円
前年度	2,853,163円	60,550,306円

今年度は、新型コロナウイルス感染防止を徹底して行いながらのデイサービス運営となりました。手指の消毒、マスクの着用に加え、利用者用テーブルを増やしソーシャルディスタンスに取組み、テーブルにはアクリル板を設置し飛沫感染防止に努めました。

利用者がセンターを出た後は、使用したテーブル、椅子、歩行器、ロッカー等を職員が毎日消毒しています。

また、町からの指定管理料については、デイサービスセンターの管理費用のほか、センターが事業開始してから20年以上が経過しているため、天井や浴室、機械室の配管などの修繕費用にも充当しました。

引続き、季節を感じられる食事やおやつを提供に努め、利用者より好評を得ました。

### ■通所介護事業(デイサービス事業)

入浴、運動(機能訓練)を行う等のサービスを提供することで、より長く自宅で生活できるように支援します。利用者の気分転換や身体機能及び衛生面での維持を図り、家族のレスパイトケア※も目指しています。

※「レスパイトケア」とは介護が必要な高齢者等がいる家族へのさまざまな支援。家族が介護から開放される時間をつくり、心身疲労や共倒れ等を防止することが目的。多くデイサービスやショートステイ等のサービスを指す。

### 【利用者】

(実人数)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護		59	59	64	66	60	61	64	63	60	56	58	56	
総合※		31	31	31	28	28	29	31	27	28	29	28	29	
計		90	90	95	94	88	90	95	90	88	85	86	85	
合計	介護	726 (前年度 662)						一カ月平均	介護	60.5 (前年度 55.2)				
	総合	350 (前年度 339)							総合	29.1 (前年度 28.2)				
	計	1,076 (前年度 1,001)							計	89.6 (前年度 83.4)				

### 【利用日数】

(延べ回数)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護		411	381	457	433	411	423	463	398	378	328	372	432	
総合※		164	145	155	157	137	161	185	131	157	153	144	186	
計		575	526	612	590	548	584	648	529	535	481	516	618	
合計	介護	4,887 (前年度 4,437)						一カ月平均	介護	407.2 (前年度 369.7)				
	総合	1,875 (前年度 1,616)							総合	156.2 (前年度 134.6)				
	計	6,762 (前年度 6,053)							計	563.5 (前年度 504.3)				

※総合とは、市町村が中心となって要支援者等の方に対する効果的かつ効率的な支援を行う「総合事業」のことです。

### 【3】訪問入浴介護事業所

	資金収支差額	経費
今年度	1,467,568 円	7,528,420 円
前年度	△3,404,867 円	11,199,749 円

中山間部のサービスの希薄な地域へのサービスの提供、医療依存度が高い利用者へのサービスの提供に努めました。介護収入については例年より少し増加しました。

また今年度は人件費の支出について見直し、収支のバランスを調えることで赤字を減らすことに努めました。また売り上げの維持に努めるとともに、質の高いサービスを提供することに努めました。

#### ■訪問入浴介護事業(入浴車)

移動入浴車で、浴槽を利用者宅に持ち込み入浴介助を行ないます。バイタルチェック等も行い、利用者の体調管理には十分な注意を払ったうえでサービスを提供しています。

#### 【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7	10	8	8	9	9	9	9	10	7	7	8
合計			101 (前年度 79)				一カ月平均		8.4 (前年度 6.5)		

#### 【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
35	31	32	31	31	35	35	31	36	26	23	29
合計			375 (前年度 331)				1カ月平均		31.2 (前年度 27.5)		

#### ■障がい者訪問入浴サービス事業(町受託事業)

自宅で家族や介護者による入浴が困難な障がい者を対象とする、移動入浴車による訪問入浴サービスです。

#### 【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計			36 (前年度 36)				一カ月平均		3.0 (前年度 3.0)		

#### 【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
21	21	21	22	22	22	23	21	21	21	20	24
合計			259 (前年度 277)				1カ月平均		21.5 (前年度 23.0)		

#### 【4】居宅介護支援事業所

	資金収支差額	経費
今年度	259,386 円	18,481,634 円
前年度	△449,377 円	18,859,787 円

利用者のサービス選択を重視した偏りのないサービス計画を作成し、利用者及び介護者や家族を支援することを実施しました。内容に応じた加算を確実に取るように努力し、売り上げの維持に努めました。

#### ■居宅介護支援事業

介護サービス利用にあたり、介護支援専門員(ケアマネージャー)が、本人や家族の要望、生活の状況、利用できるサービスの上限等を勘案して「何を」目的として、「どのサービス」を「どれ位」使うか、「いつ」使うか、「どこのサービス」を使うかについて「介護サービス計画」を作成します。また、在宅生活向上のアドバイスも行っています。

#### 【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
107	103	103	104	104	103	101	99	98	98	95	97	
合計		1,212 (前年度 1,200)					1カ月平均		101.0 (前年度 100.0)			

#### ■訪問調査事業(町受託事業)

要介護者の心身の状況や日常生活の状況等について聴き取り調査を行い、介護判定に必要な認定調査票の作成を行っています。

#### 【対象者】 ※( )は内数で他市町村分

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
4	6	6	2	6	3	5	6	9	5	4	2	
合計		58(0) (前年度 101(3))					1カ月平均		4.8 (前年度 8.4)			

【5】地域包括支援センター（町受託事業）

今年度経費 19,587,624 円  
前年度経費 19,803,930 円

地域包括支援センターは、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。具体的には、要介護認定申請の代行やケアプランの作成、受けられるサービスの紹介を行います。また、支援を必要としない人に対しては、自立した生活を続けることを目的とする地域サロンを行っています。

■総合相談支援

相談件数が非常に増加しています。また、相談を受けても介護となる人が増えています。

( )内は前年度実績

内容	件数	内容	件数
介護保険サービスの利用に関すること	48(54)	住宅改修・福祉用具に関すること	12(10)
在宅での生活・在宅介護に関すること	105(25)	関係機関との連絡調整	43(12)
施設入所に関すること	14( 5)	実態把握	96(54)
運転免許返納に関する相談	8( 0)	新型コロナウイルス感染に関すること	33( 0)
医療に関する相談	5( 4)	計	364(164)

■介護予防支援事業

要支援1または2と認定された人は、介護予防に関するサービスを利用することができます。適切なサービスが利用できるよう、ケアプラン（介護予防サービス計画）作成や、サービス事業所との連絡・調整などを行っています。

【介護予防支援取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
包括	56	58	59	60	58	54	55	61	60	60	56	60	
委託分	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4	
計	62	64	65	66	64	60	61	67	66	66	62	64	
合計	包括		697 (前年度 662)					一カ月平均		包括		58.0 (前年度 55.2)	
	委託分		70 (前年度 84)							委託分		5.8 (前年度 7.0)	
	計		767 (前年度 746)							計		63.9 (前年度 62.2)	

## ■介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)

要支援1または2と認定された人で、町が主体となって行う介護予防事業を総合事業(通所介護事業と訪問介護事業)として利用する人のケアプラン作成等の取扱件数を示しています。

【総合事業取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
包括	46	42	43	44	44	45	49	45	46	44	45	46
委託分	2	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0
計	48	46	45	45	45	46	50	46	47	45	46	46
合計	包括		539 (前年度 556)					包括		44.9 (前年度 46.3)		
	委託分		16 (前年度 16)					委託分		1.3 (前年度 1.3)		
	計		555 (前年度 572)					計		46.2 (前年度 47.6)		

## ■訪問調査事業(認定調査)

要介護認定者等の心身の状況や日常生活の状況等について聴き取り調査を行い、介護判定に必要な認定調査票の作成を行っています。

【対象者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	2
合計		7 (前年度 32)					1カ月平均		0.5 (前年度 2.7)		

## ■地域介護予防活動支援事業

毎年、地域住民が主体となって行うサロンを展開していますが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、思うように開催ができませんでしたが、様々な工夫をして行ったり、感染予防をして開催をしました。

【介護予防支援取扱件数】

(件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
サロン	8	0	8	13	1	4	14	14	13	4	6	9
いきいき健康教室	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1
介護予防教室	0	1	2	2	1	1	2	2	1	0	0	0
合計	サロン		94 (前年度 136)					サロン		7.8 (前年度 9.0)		
	いきいき健康教室		7 (前年度 10)					いきいき健康教室		0.5 (前年度 0.8)		
	介護予防教室		12 (前年度 12)					介護予防教室		1.0 (前年度 1.0)		

## ■地域ケア会議

ケアマネージャーや介護事業所及び医療機関関係者が参集した中で、要援護高齢者に対するより良い支援を検討します。また、関係機関の情報を共有することで地域のネットワークを構築し、適切な介護サービスの提供に努めています。

また、個別ケースの支援検討が緊急に必要な場合に個別ケア会議を行いました。

包括ケア会議	12回
取扱件数	261件
個別ケア会議	3回

## ■認知症サポーター養成講座

認知症を理解し、認知症の人やその家族を見守り応援するのが、認知症サポーターです。

地域の皆さんに認知症に対する理解を深めていただくため、要請に応じて認知症サポーター養成講座を開催しました。

養成講座	1回
延べ	888人参加

## 2. 障がい福祉サービス事業（障害者総合支援法）

障害者総合支援法に基づき、心身に障がいがある方や特定の疾患のある方が、地域のなかで自分らしく生活を続けていけるよう、介護サービスを提供する事業所の運営を行いました。

### 【1】自立支援訪問介護事業所

	資金収支差額	経費
今年度	74,554 円	13,826,596 円
前年度	4,484,498 円	7,634,812 円

障がい者が自立した日常生活、社会生活を営むために必要な障害福祉サービスのうち、居宅介護(ホームヘルプ)サービスを提供しています。

令和2年度は、訪問介護事業と人件費の調整を図ることで支出が増加しましたが、前年度同様、黒字を維持することができました。

#### ■訪問介護事業(ホームヘルプサービス)

訪問介護員(ホームヘルパー)が利用者宅を訪問して、オムツ交換、入浴介助及び清拭等の身体介護や買物、調理、洗濯及び掃除等の家事援助を行います。

#### 【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
9	7	8	8	9	11	11	10	11	10	11	10	
合計		115 (前年度 83)					一カ月平均		9.5 (前年度 6.9)			

#### 【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
66	133	128	138	133	150	151	136	149	144	133	153	
合計		1,614 (前年度 1,457)					1カ月平均		134.5 (前年度 121.4)			

#### ■移動支援事業(受託事業:埜町地域生活支援事業)

単独で外出をすることが困難な障がい者や障がい児の外出の際に、ヘルパーが付き添い移動の支援を行うサービスです。

#### 【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		1 (前年度 29)					一カ月平均		0.08 (前年度 2.4)			

#### 【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		4 (前年度 146)					1カ月平均		0.3 (前年度 12.1)			

■ 育児支援家庭訪問事業(受託事業:埜町育児支援家庭訪問事業)

養育支援の必要がある家庭を訪問し、育児指導や簡単な家事の援助、養育相談及び指導等を行います。

【利用者】

(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計			13 (前年度 21)				一カ月平均		1.08 (前年度 1.8)		

【利用回数】

(回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4	4	3	5	2	3	5	4	4	3	3	3
合計			43 (前年度 76)				1カ月平均		3.5 (前年度 6.3)		

■ 障害支援区分認定調査

障害福祉サービス給付申請者の心身の状態や生活動作の状況等について調査を行い、障害支援区分の判定に必要な認定調査票を作成します。

市町村からの要請に応じて調査を行います。

埜町分	2件	(前年度 4件)
他市町村分	2件	(前年度 5件)
合計	4件	(前年度 9件)



### 3. その他の特記事項

#### 【1】新型コロナウイルス感染症対策関連

##### ■国や県からのマスク、消毒液支給

1)社会福祉協議会へ	マスク 50 枚
2)通所介護事業所へ	マスク 200 枚
3)訪問介護事業所へ	マスク 200 枚
4)訪問入浴介護事業所へ	マスク 200 枚
5)居宅介護支援事業所へ	マスク 100 枚
6)障がい者自立支援介護事業所へ	マスク 300 枚、アルコール消毒液 10 本(500ML ボトル)

##### ■国からのコロナ対策支援金支給

1)通所介護事業所へ	892,000 円
2)訪問介護事業所へ	534,000 円
3)訪問入浴介護事業所へ	564,000 円
4)障がい者自立支援介護事業所へ	115,000 円
5)居宅介護支援事業所へ	148,000 円
6)包括支援センターへ	148,000 円

##### ■町内マスクプロジェクトや町民の方からのマスク寄付

- 1)町内マスクプロジェクトからマスクの寄付 150 枚  
・職員へ配布しました。
- 2)個人からの手作りマスク寄付 計 115枚  
・「利用者の方へ」ということで、利用者へ配布しました。

##### ■埴町から「新しい生活様式に取り組む中小企業応援金」支給

- ・社会福祉協議会へ 200,000 円

##### ■埴町から消毒液の支給

##### ■事務局と介護事業所管理者による感染症予防対策会議の開催(月1回開催)

##### ■利用者、家族等へ感染対策の協力呼びかけ

- ・感染症予防対策会議で話し合い、感染症に対する対応について詳細を通知しました。  
(通知回数 5回 4/10、4/30、11/6、12/16、3/10)

##### ■新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの作成